

R5年度 第1回 IYEO 幹事会 議事録

日時：2023年5月21日(土)9:30-12:00

会場：Zoom オンライン

出席	長末会長、本田副会長(戦略)、小島副会長(事業)、佐々木副会長(都道府県)、白木副会長(社会貢献・財政)、高橋(北海道・東北 B)、岸田(関東 B)、日南田(北信越 B)、高木(東海 B)、佐藤(中国 B)、工藤事務局長、池田事務局次長、大野事務局次長、長谷川(戦略)、田島(東ア)、小田(中国)、宮城(韓国)、滝川(航空機)、樋口(都道府県)、伊勢(社会貢献)、小柳(財政)、横倉(広報)、高橋(世界)、金澤(社会貢献)、河尻(社会貢献)
欠席 (委)委任状あり	亀谷(関西 B)、藪田(四国 B) (委)、有吉(九州 B) (委)、吉村(社会貢献・財政) (委) 白鳥参与
議長	高橋(北海道・東北 B)
議事録	池田事務局次長
オブザーバー※	野村監査役、吉岡監査役、大河原顧問、高下顧問、伊丹アドバイザー
成立条件	28 (出席 25 + 委任状 3) / 29 で成立。

※議決権なし

■会議アジェンダ・タイムライン

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1OSBUtOKKS-o5L07Bxlgj4u6MrEol6SRCYmliMNxgJgk/edit#gid=1618581886>

■資料格納フォルダ

<https://drive.google.com/drive/folders/1GtTgRZqegfc-QAzrGp0ZXYppyr-BMPDq?usp=sharing>

【1】四役 提案・議論・議決

- a. IYEO 中期経営計画の策定 発言者：池田事務局次長、大野事務局次長
- ・ 幹事会に期待する組織マネジメントについて
 - ・ 中期経営計画策定の進め方について
- b. 全入会について 発言者：長末会長
- ・ 前回推進会議の素案について、各都道府県等からのフィードバックの確認
- c. 内閣府との事後活動推進会議の議事について 発言者：工藤事務局長、本田副会長
- ・ ①全入会制度について、②SWY 寄港地活動準備状況、③あり方検討委員会について(同期幹事含む)で議事を設定。
- d. ハラスメントガイドラインについて 発言者：工藤事務局長
- ・ ガイドラインの概要と経緯について確認
 - ・ 2019年に制定済みのものについて見直しを行い、会員に公開したい。

議決結果・決定事項

- d. ハラスメントガイドラインについて
- ・ ガイドラインの内容修正、会員への公開について可決。(賛成19件、委任状3件)

To DO・継続審議事項（担当者、期限）

a. IYEO 中期経営計画の策定

・ 9月推進会議の承認を目指し、下書き作成、人材公募、パブリックコメントの募集を行う。(担当：大野)

b. 全入会について

・ 意見があれば5月中に提出すること。(担当：長末)

c. 内閣府との事後活動推進会議の議事について

- ・ 都道府県関連の内容(ブロックイベント、行政との関係性、)は個別に議論の場を設定。
- ・ 内閣府から送付される紙媒体は内閣府と受注業者で検討。

質問・意見（要約・抜粋）

a. IYEO 中期経営計画の策定

・ 【意見】 関東ではトップダウンの未来設定に疑問を持つ都県が多くある。都道府県からの意見も踏まえて計画を立てられると良い。(岸田関東ブロック幹事)

→回答：はい、中期経営計画の取り組みは決してトップダウンではなく、この作業を進めるための有志を公募し、完成前にパブリックコメントを全会員に求めるようにしたい。是非関東からも名乗りを挙げて関わってもらいたい。(大野事務局次長)

→名乗りを上げる、というより、基本的に全都道府県からの意見を集約する、という形にしていきたい。(岸田関東ブロック幹事)

→名乗りを上げない場合はパブリックコメントを募集するときにご意見いただきたい。(大野事務局次長)

b. 全入会について

・ 【質問】 ①イベントの会費を分ける話があったが、都道府県のイベントも必ず参加費を分けて設定しなければならないということか？

②アルムナイメンバーでも、都道府県 IYEO で年会費を払って活動しても良いということか？

③アルムナイメンバーに期待していることはなにか？(会員ではないということは活動は期待しないということか？)(岸田関東ブロック幹事)

→都道府県の対応は都道府県の方で判断してもらえば。基本的には会員とアルムナイの差をつけるべきだと思っているが、都道府県としては金よりも活動するメンバーのニーズの方が実態としては強いと思っているので、会員の年会費を払う払わないというところは別で、都道府県の方で年会費を払って活動したいということであれば、それでよいのでは。ただ、違いを混同しないように、説明をしていただきたい。アルムナイメンバーに期待することは、会員かはさておき、活動はしていただきたい。内閣府の事業としても段階的人材育成で事業に参加する前の段階、事業参加、その後の事後活動という三段階のフェーズがあるが、「内閣府の事業に参加した人たちは、その後の事後活動をきちんとしてください。その受け皿としていろいろあります。」と連続して行けるように、活動してもらいたい。その中で、会員の方になりたいと言うところを我々としては進めていかなければいけない。(長末会長)

→質問の①②だが、会長の言うとおりに、実際、内閣府事業参加者でない方も都道府県の中では会員になっているので、問題ないと思う。(樋口都道府県担当幹事)

→ほかの県がどうか全部把握はできていないが、長野県では事業参加者でない方も、長野県 IYEO のメンバーと一緒に活動しているので、事業参加者に関して今会長が言ったように一般会員になっていくように進めていきたいが、今の段階で、いきなり会員に入ってもらいたくのがすごく難しいのが現状。まずは一緒に活動して行くことがすごく大切。活動が見えていると、会費はだいたいほかの県も 2000 円とか 3000 円とかが多いと思うが実際に目に見えている仲間がいるから払うという人はい

る。事業参加者じゃない留学生とか事業に参加した人に限らず、それぞれの都道府県のメンバーという認識をすごく持っていたり、IYEOのメンバーですって自己紹介してくれたりすることもある。(樋口都道府県担当幹事)

→【意見】質問③について、ただ会員にするだけではあまり現状と変わらない気がする。今も入会してくださいね、というスタンスではあるので。なので、関東からの意見としては、どう活動に巻き込むかというのを併せて議論しないと机上の空論になってしまうことを懸念している。(岸田関東ブロック幹事)

→将来的には、ということにしていきたい。都道府県で活動巻き込んで、仲間意識を芽生えさせてからであれば、会員入会をお願いしやすい。また、入会の前後を制約してほしくない。(岸田関東ブロック幹事)

→現状都道府県 IYEO の役員で IYEO 会員になっていない人がいるケースもあり、会員登録を促しても難しい部分がある。(本田副会長)

・【要望】管理が大変なので会員全員に会員番号の付与を DX ご担当者をお願いしたい。アルムナイ、一般、正会員が数字を見るだけで判断できると嬉しい。(横倉広報担当幹事)

→DX 担当者は 1 名だけなので、管理方法を先に設計する必要がある、会員番号の在り方はその結果による。(大野事務局次長)

→これからメンバーが増えるということか。(横倉広報担当幹事)

→時期未定だが公募する。(大野事務局次長)

・【質問】過去(2022 年以前)の事業参加者も新規でアルムナイメンバーとして無料で入会・登録できる認識で間違いないか?(長谷川戦略担当幹事)

→該当者と連絡できるのか物理的な問題があると思うが、この制度が推進会議で承認されたという前提でその認識でいいと思う。(長末会長)

→連絡で掘り起こすのも一つだと思うが、例えば、2019 年以前の事業参加者が本人から希望して入会を希望した時にアルムナイメンバーを選ぶことは可能か?(長谷川戦略担当幹事)

→アルムナイメンバーを選ぶというか、個人情報 IYEO に登録することを了承すれば、自動的に登録の形になると思う。確認をとった時に、特に会員になるつもりはないけど、アルムナイメンバーで登録してくださいという選択になる。(長末会長)

・【意見】私は、IYEO のアルムナイ会員である事と、都道府県 IYEO 会員制度はリンクさせるべきだと思う。あと、会員種別は正会員と一般会員を統合させ、賛助会員を残す方が良いのでは。(メンバー名称は賛成)(佐藤中国ブロック幹事)

→都道府県会員ばかりになったら、IYEO 役員が増えない。我々が楽になるためにもリンクさせたい。(横倉広報担当幹事)

→佐藤幹事の意見は、もっともで事業参加者をあくまでも正会員になってもらえるようにリンクしてもらえることが基本としたい。が・・・そのようになっていないのが現状だ。(樋口都道府県担当幹事)

→都道府県 IYEO とアルムナイ会員とリンクさせるべきだというのは、会員であれば連絡先を持っているので、都道府県の会員の方々と同等に活動はできると思うが、都道府県の会員という定義がお金を払っている人達なのであれば、そこはリンクできないのかなと思うので、都道府県によるのかなと思う。正会員一般会員の統合は最終的にはしたいが、現時点では過去 2 万円 3 万円払っている人たちと 8000 円を払っている人たちとの間の説明と、その違いについて差別化をすべきという意見の方が圧倒的に多かったので、現時点ではちょっと難しいと思う。最終的には一つにしたい。(長末会長)

→賛助会員を残すほうが良い理由、現時点で一般会員と内容はほとんど同じなので分ける理由がないと判断したが、理由は何か?(佐藤中国ブロック幹事)

→広島で活動する場合、会員になってもらうために、IYEO の会員にぜひなってほしいという進め方をしている。IYEO 会員でないと広島会の会員に加えることは難しいという言い方もしてきたのもあ

るが、事業参加者は結構それですぐ入ってくれる。アルムナイメンバーという枠組みができて入れま
すとなると、私が学生なら I Y E O の方にはアルムナイメンバーとして登録して広島の方には会費を
払ってもらって会員という形になりそうなのを危惧している。実際は都道府県での活動が基本なので今
後は正会員にならずアルムナイメンバーで都道府県で会員になるというパターンが多数になってくる
のではないと思う。なるべくリンクさせる形に進めていかないと最終的には難しい状況になるの
では。

賛助会員は今会長説明を受けて、それもごもっともだなと思った。広島では活動を伴わないけどお
金を払ってくださる方を賛助会員と呼んでいるので、一般的な定義としてあったほうがいいかなと思
った。(佐藤中国ブロック幹事)

→今までの賛助会員を一般会員に置き換えてもらえれば解決するのかなと思う。リンクするかどうか
多分都道府県によってスタンスが違うので、これは皆さんのご意見をいただきたい。(長末会長)

・【質問】例えば、内閣府事業受入れの実行委員や、ブロックイベントの実行委員なども、会員種別
(アルムナイメンバーも含め)による制約は受けないということ間違いはないか。(岸田関東ブロック幹
事)

・【意見】会員種別による制約はないということだが、実行委員謝金や交通費などは入会金払ってい
る人との差を設けたいと思った。(横倉広報幹事、高橋北海道東北ブロック幹事)

→確かにそれが理想だなとは思いつつ、IYEO では会員ではないけど、都道府県 IYEO の会員ではある
場合には、取り扱いが難しそうだと感じた。(都道府県の会費から交通費補助を出しているケースも
あると聞くので…)(岸田関東ブロック幹事)

・【質問】意見が出せるならいつまでか？ブロック内で再確認したい。

→本来は先週末期限で佐々木副会長からブロック内の意見をまとめていただくフェーズを持ってい
ただいていた。今日の幹事会の判断と大きく変わるものであれば推進会議に出す資料を変えることにな
る可能性が出るので今月中にいただきたい。(長末会長)

・【意見】メンバーという表記が良いと思う。現状の正会員と一般会員でも会員自身が理解できてい
ないケースは発生していると思うので、メンバーという違う言い方がいいと思う。(長谷川戦略担
当幹事)

→アルムナイという言葉がピンときにくいので、「同窓会メンバー」とかの方が感覚的に理解しやす
いのではと感じた。(佐藤中国ブロック幹事)

・【意見】元神奈川としては、一番困っていたのは事業参加者にどうやってアプローチすべきか、と
いうことだった。IYEO 本体と都道府県 IYEO の違いはいまだに私がかわかっていないくらいなので、事
業参加者には複雑だと思う。なので、IYEO 本体のアルムナイメンバーになったら都道府県 IYEO のア
ルムナイメンバーにもなる、というくらいリンクさせて欲しいと感じる。そうすれば連絡が取りやす
く、都道府県として繋がりを作るアクションも取りやすい。(金澤社会貢献担当幹事)

→連絡が取れるようになるので会員予備軍という立ち位置で同じ認識だ。(長末会長)

・【意見】事業別の活動のみ(中国であれば中国派遣団同窓会運営委員)に参加して都道府県活動に
参加していない方もいる。事業別の同窓会活動についても会員種別による取り扱いの区別?や、入会
へのリンクなどを考えていく必要があると思う。(小田中国担当幹事)

c.内閣府との事後活動推進会議の議事について

・【要望】全入会制度について話される際、事前事後研修での IYEO 紹介枠について確保いた
きたい。(長谷川戦略担当幹事)

→全入会制度の説明で、具体的な内閣府への依頼事項をまとめて伝えていく予定。長末会長の資料も

準備中と認識している。(本田副会長)

→全入会の資料2ページ目に内閣府への要望という形で IYEO 紹介枠、及び会員の参加を入れている。(事前研修に紹介のコマを入れるのは明言していないので入れておく)(長末会長)

→・【質問】都道府県 IYEO とのやりとりを事前研修、事後研修で行う件についても含むか?(岸田関東ブロック幹事)

→事後研修枠で IYEO の説明枠を用意してもらい、その中で会員を送り込んで顔が見える機会を作ることには含めている。恐らく両方でというのは難しいかもしれないが事前研修についても入れておく。(長末会長)

→都道府県 IYEO とのやり取りも含む認識。オンボーディングの全体観点で時間の確保をお願いしたので依頼した。(長谷川戦略担当幹事)

→去年は、事前研修でもコンタクトを取っていたため、可能であればお願いしたい。参加青年宛にメール等も流すので、早めに IYEO を認識いただける機会は作りたい。(長谷川戦略担当幹事)

・【回答】平日の昼間にやる会議に参加できるのか不明なので、都道府県からの意見、個別のやりとりで賛成。(岸田関東ブロック幹事)

・【要望】事業担当としては、同窓会実施にあたり、内閣府主導で進めていた同期幹事と連携していきたいが、どうなっているか知りたい。(小島副会長)

→去年、同期幹事を置こうということで声をかけた。ただし名前が挙がったのは船事業だけで、それ以外のところは特に決め切れてなかったようで、曖昧になっているところがある。新しく就かれた伊藤さんとその扱いについてどうするか確認したほうがいいと思うが、こちらから何かもう少しリクエストとかがあると動きやすいのかなと思う。ゼロイチの話なので、具体的に動かすのは難しいのかなと思う。(本田副会長)

→小島副会長のおっしゃるようにこのネットワークは事業担当と一番近いイメージがあるので、同期会を事業チームでやっているの、同期幹事の動きと連携させませんかという提案はあると思う。(伊丹アドバイザー)

→あり方検討会議の三本の柱のうちのグローバルネットワークの強化というところ。これで議論する中で事業チームの話も連動して話せるのかなと思った。(本田副会長)

→同期幹事の件は、あり方検討会のその後のトピックで、あげさせていただく。事業担当副会長及び事業担当の方々にも話を振らせていただいて、連携したいというスタンスを示した上での議論に持ち込めれば良いと思う。(工藤事務局長)

→連携したいと言ってるだけだと、何するのかが分からないので、自分達はこうしたい、内閣府はこうしてほしいというものをちゃんと作って持って行かないとただしゃべったという実績ができるだけで何も進まないのではないかとと思う。(大野事務局次長)

→具体的には内閣府の人にどこまでやってほしいか、同窓会の周知を SNS でやってほしいだけなのか?ネットワークを作るってあり方検討会でも指摘されているので内閣府のどういうバックアップが欲しいとか。(伊丹アドバイザー)

→育成は同期幹事に動いてほしい。(事後研修で同期幹事の話をついでに団員が話していたはず)(滝川育成担当幹事)

→中国も同期幹事は決まっているし、内閣府にも伝達済みのはず。一体何のために設置して、何を連絡すればいいのか。(小田中国担当幹事)

d.ハラスメントガイドラインについて

・【補足】IYEO ではハラスメントガイドラインを 2019 年に作った。その頃少しずつハラスメントについての認知が広がっていたが、2020 年 6 月に先行して大企業を対象として施行された「労働施策総合推進法(通称:パワハラ防止法)」が、2022 年 4 月からは中小企業も含めて完全義務化されてきた社会的背景もある。現在は、多くの大学でもとりいれられ、こういったガイドラインがあること

が団体の基本という位置づけになっている。(本田副会長)

・【補足】

→2019年、たまたまその時に内閣府にいたので、知ってはいたが、その時の決定を尊重しつつ、そぐわないところ、最低限の修正という形で、事務局長に修正いただいた。補足すると、2019年当時高下会長本田副会長を中心に三役で議論された結果、都道府県の方からすると、いきなり副会長とか事務局長よりも自分たちのブロック幹事の方が話しやすいという配慮でハラスメント対応チームに所属ブロック幹事が入っている。必ずブロック幹事に入ってもらわなければいけないでなく、ヒアリングしてケースの選別を行ってやっていくので、臨機応変にフレキシブルに対応することになる。当事者がブロック幹事を入れて欲しいと言うなら、基本的には入れる。相談されている方の希望に応じてこの人には伝えて欲しくないのであれば絶対伝えてはいけないし、相談者目線で対応するのが一番基本かなと思っている。(伊丹アドバイザー)

・【質問】 広島の前会長の時に広島の会員から同様なハラスメント事案について相談を受けたことがある。都道府県ベースでもこうしたものを作っておいた方がよいか？(佐藤中国ブロック幹事)

→事務局の立場としては、IYEO としての方針はガイドラインとして今示したものが主軸になる方が管理が大変にならないかなと思う。(工藤事務局長)

→こういう場面と対応とかも聞きたいというのはあるに越したことはないが、事務局長がおっしゃったように団体として、県とか、幹事会によってバラバラっていうのはおかしな話になる。国が基本法を作ってそれに準じて自治体が条例作るみたいなケースもあるので、これを参考に県でも似たような、会長と副会長に通報くださいとか、そういうのを決めておくというやり方はあると思う。ガイドラインを作るかどうか、都道府県の判断になると思うが、一方で役員の方々には対応の心構えについて、都道府県でも幹事会でも知っておいた方がいいと思う。過去の業務でハラスメント対応したことがあるので、その時に参考したものをご覧いただきたい。会員が相談する場合もだが、相談された側もちゃんと対応しなきゃいけないので、幹事会の皆さんは相談対応の窓口相談対応の手順など、基本的に相談にあたっては相談者の話を聞いて、ご希望に沿って適切な対応をやっていくことが必要。都道府県でも役員研修などされる場合は参考になると思うので、共有させていただく。(伊丹アドバイザー)

■職場におけるハラスメント対応マニュアル(厚生労働省作成)

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000181888.pdf>

【2】 戦略 報告

a.R5 年度オンボーディング(昨年度の振り返り、入会率報告含) 発言者：長谷川戦略担当幹事

- ・事前研修から IYEO の紹介や青年との接点を増やす工夫を行ってきた。
- ・2022年度事業参加者のうち入会者は27名。(全体の21.6%)
- ・ブロックイベントや都道府県の活動などがきっかけで過去の参加者の入会も若干数みられた。

b.R5 年度 Learning Program 発言者：長谷川戦略担当幹事

- ・「世界で生きている日本人集めてみた」6月23日開催予定
- ・『世界一周学校 校長 Masato が語る！「私を作る冒険」』7月21日開催予定

議決結果・決定事項

- ・特になし

To DO・継続審議事項（担当者、期限）

a.R5 年度オンボーディング(昨年度の振り返り、入会率報告合)

- ・7月事前研修開始に向けてワーキンググループ立ち上げ。(担当：長谷川戦略担当幹事)

質問・意見（要約・抜粋）

- ・特になし

【3】事務局 報告

a.全国推進会議 Teams の運用開始 発言者：大野事務局次長

- ・全国推進会議 Teams を作成、対象者を招待済み
- ・全国の活動組織で運営を担うメンバーが直接コミュニケーションをとって問題解決できる。共創活動の促進。
- ・コミュニケーションコストの改善。
- ・推進会議の議案を事前に Teams に上げることで、議論を活性化する。

議決結果・決定事項

- ・特になし

To DO・継続審議事項（担当者、期限）

- ・熱い自己紹介チャンネルに投稿してほしい。(参加者)
- ・登録の際にお困りのことがあったら事務局までお知らせいただきたい。(担当：事務局)

質問・意見（要約・抜粋）

- ・【質問】登録者の削除はどのようにするのか？依頼して削除してもらおう？余計に人が増えていっても管理が面倒な気もする。(岸田関東ブロック幹事)
- 随時連絡をしてもらおう+年に1度棚卸をする、で考えている。(大野事務局次長)

【4】社会貢献 議論

a.R5 年度 SWY プログラム寄港地活動について 発言者：白木副会長

- ・重点施策
 - ①同窓会組織としての交流促進
 - ②内閣府事業への直接的な協力・連携としての事後活動
 - ③社会課題解決・価値創造を目的とした活動の創出と支援
- ・役割分担
既存会員と新規会員のつながりづくり：金澤幹事、河尻幹事
内閣府事業連携：白木副会長、伊勢幹事
- ・SWY 地方プログラムについて
ワーキンググループの立ち上げ(白木、佐々木、本田、高橋香、伊勢)
内閣府とともに各寄港地のヒアリングなどに同席、要望について調整。

議決結果・決定事項

- ・特になし

To DO・継続審議事項（担当者、期限）

・特になし

質問・意見（要約・抜粋）

・【補足】

去年のあり方検討会での、令和時代にアップデートした新しい事業を作ろうという方針は良かったが、従来のボランティア形式でやる受け入れでは寄港地活動の対応ができないというところが発端となっている。形式は①従来の受け入れ実行委員の拡大型(高知)、②IYEOメンバーの所属する団体が中心となって動くソーシャルビジネス系のあり方、③自治体を中心の形(京都)のように、それぞれスタイルが違う。寄港地の受け入れは通常の受け入れと全然違うことを幹事会の皆さんは認識していただきたい。②、③に関してIYEOができるとしたら、今年度参加者の人のフォローとか、地元で実行委員に協力できる人を募集するとか、ノウハウの共有と、当日関わる人たちをスポット的に募集することぐらいではないかと考えている。令和五年度は寄港地の3県は決まっているが、まだ受注業者が確定してないので、具体的な動きが始まっていない状況。企画会議で依頼をする内容としては三年間国内寄港になるという話になっているので、二年目三年目については効果的なプログラムを作るにはこれぐらいの準備期間が必要だということを伝えて、それに合った準備スケジュールを内閣府の方で出してほしいということを具体的な依頼事項として出そうとしている。(本田副会長)

→寄港地ごと準備を進めるなか、課題が見え、対応が難しい部分をアップデートして行かないと、地方のIYEOが疲弊したり、関係者の信頼を失いかねない危機感を覚えている。三年間のプログラムをどうやって作っていくか？前田さんから頂いている要望としては従来の受け入れの謝金は運営するボランティアの方の足しにしかならない。企画で動いたり、前年度から調整したりする人件費とか、事業の組み立ての費用は今の内閣府の予算で組まれていないので、総額の予算自体もしっかり適切なものを組まないと地域の実践プログラムは作れない。従来の交流プログラムと難易度が違うということと、受け取り方も個人の謝金でつけてしまうような、予算の形を取ってしまうと、全国から集まってもらったり、海外に居る高知県ゆかりのメンバーに戻ってきてもらう費用のような柔軟な配分ができないので、予算の受け取り方とかも十分に配慮してほしいという要望とかもいただいている。受託事業者が決まるまで予算措置が取れないとなると、持ち出しで相当動いていただいている。持ち出しのお金あまり発生しないように我々幹事会の方が、企画会議の方にアジェンダを出して内閣府と協議をして、改善をしていくことになってくる。都道府県にとってもブロックにとっても、佐々木副会長もワーキンググループに入っていらっしゃるので、せっかくこういう規模の大きい受け入れをやるのであれば、この地方プログラムをどうするか、どういうふうにその機会を活用できるか議論しながら進めていただければ嬉しい。(白木副会長)

・【提案と質問】社会貢献領域で稼働中の活動チームも全国推進会議チームに加えられればと思う。

そこの関係性やコミュニケーションは今どのような状況か。(大野事務局次長)

→既存会員の活動支援については金澤さん河尻さんが担当として引き継がれて、未来創造会議で生まれたプロジェクトとか、オリパラの方だとか、プロジェクトなどについては順次連絡を取りながら、コミュニケーション体制を整えるということで確認している。今月、社会貢献の運営ミーティングがあるので、大野さんが出している中長期の計画だとか、具体的に今年度どういうふうなプロセス進めていくかについては、今月来月で詰めて共有できるようにしたい。(白木副会長)

→全国の活動メンバーと一緒にやっていたほうが相乗効果あると思うので、よろしく願いたい。(大野事務局次長)

→金澤さんがキャリアデザインセミナーを担当されているところもあり、チーム横断とか、都道府県の事情もよく、おわかりなので、社会貢献の枠にとらわれずに進めていきたいと思う。(白木副会長)

・【意見】先ほど予算の増額の話があったが、基本的に増額はそんなに簡単じゃないので、何かを削りつつ、ここ工夫してこう増やしたいという形で増額要求する。6月の下旬だと遅く、間に合わなく

はないが、企画会議でお話されるということだったので、本気で増やしてほしいならかなり切迫感思
って伝えないと動いてくれないと思う。(伊丹アドバイザー)
→寄港地のプログラムを作るとすれば、こういう人件費と活動費があるということをそれぞれ提示い
ただいている。2023年度は予算が決定しているので、次年度以降、どういうふうな謝金をつけるとか
活動費があるとそれぞれの寄港地が活動できるかについては、金額も含めて具体的な案と共に提示を
しているという状態。今年度センターの受託が決まったら、予算の中でやりくりするかという問題も
出てくると思うが、元々の予算の付け方の考え方とかが変わらない限り、根本的な解決にならないと
思うので引き続き調整をしたい。ただ、今年度世界船担当の内閣府の担当者のかたがほぼメンバーが
入れ替わっていて、この辺りが前任の方からどのぐらい、協議を重ねてきたこととか、要望を出した
ものについて認識しているのかはちょっと定かではない。(白木)
→アドバイスとして申し上げると予算は世界船担当もだが、取りまとめは伊藤さんがやるので、企画
の方と両方に説明しておいたほうがよい。(伊丹アドバイザー)
→企画担当、世界船担当と両方にアプローチをしながら企画会議のアジェンダを乗せて、実務的なと
ころも進めていきたい。(白木)

- ・【報告】SWY 広報・募集（実行委員、スタッフなど）の近畿ブロック展開に関しても佐々木副会長
に自治体と IYEO の役割分担はどのように考えていくのか確認中。(横倉広報担当幹事)
→ぜひ事業・都道府県と連携して実施したい。(高橋世界船担当幹事)
- ・【意見】内閣府の感覚だと、予算の話は、6月下旬の企画会議で内閣府に初めて話すのは来年度予
算要求のタイミング的にギリギリなので、前もって少しにじみ出しをしていた方がよい。(伊丹アドバ
イザー)
→5/19 に全入会の話と合わせて伊藤さんにお話をしている。(本田副会長)

【5】財政報告

a.寄付の取り扱いについて 発言者：白木副会長、小柳財政担当幹事

- ・ IYEO 全体の財政とチャレンジファンドの有効活用、遺贈寄付について対応検討中。

議決結果・決定事項

- ・ 特になし

To DO・継続審議事項（担当者、期限）

- ・ 特になし

質問・意見（要約・抜粋）

- ・【質問】IYEO 全体の財務が破綻している問題の解決は白木副会長の担当業務の範囲内か。範囲内
の場合、どういう計画で進めていく予定なのか。中期経営計画の根幹を成すため。(大野事務局次長)
→2月の推進会議で、全入会のそもそも事業に参加した人が会員にならないということ、全体にかか
る事務局経費をどうやって全国の皆さんと分担しながら担っていくか二つ出したうえで、先に全入会
の方をまず進めていきたいと思いますということが確認されたと理解している。当然ながら全入会の話がま
とまったら、次は事務局の200万円相当の、予算規模のものをどうやって負担していくかという話
いと認識している。そこに向けて全国の皆さんから、意見を求めながら案を作っていくと通らな
いと認識しているので、次回の推進会議に何かしら進捗を出すということは幹事会でお約束をさせ
ていただきたい。ただ、小柳さん、吉村さんが財政の担当だが、過去の経緯から含めて複雑に入り組
んでいるので、私も含め、高下アドバイザー、本田戦略担当と共に推進会議に何かしら案を図る形に持
って行かないといけないと思っている。

→改革の計画案が出てくるということだったので、それを見ながらみんなで議論を進めていけばよいのではないかと思う。(大野事務局次長)
→自主事業や自主財源を作っていこうという話と、給付の話と都道府県とか運営チームと今後作っていく話になると思うので、引き続き情報共有しながら、グランドデザイン作っていければと思っています。(白木副会長)

【6】事業報告

a.事業担当から報告 発言者：小島副会長
9/16(土)～9/17(日) 日韓交流連絡会議 @ソウル
10/14(土) SWY 同窓会 @オリセン

議決結果・決定事項

・特になし

To DO・継続審議事項 (担当者、期限)

・特になし

質問・意見(要約・抜粋)

・特になし

【7】広報提案

a.Humano 広報依頼 発言者：横倉広報担当幹事
b.内閣府と連携した広報小委員会の立ち上げについて
・具体的な課題について IYEO から意見がほしいとのことで、広報のデジタル化について検討
c.広報勉強会のご案内
・のべ100人が参加。6月はエクセルをテーマに実施。

議決結果・決定事項

・特になし

To DO・継続審議事項 (担当者、期限)

a.Humano 広報依頼
受入に関するアンケートを作成、フォームにて依頼(横倉広報担当幹事)
b.内閣府と連携した広報小委員会の立ち上げについて
・令和5年度内閣府事業日本青年募集広報の紙媒体活用に関するアンケートを推進会議 Teams で実施。(6月1日～10日)
・アンケートを基に内閣府に報告し、令和6年度の募集広報について検討開始。(7月～)

質問・意見(要約・抜粋)

・【意見】横倉さん主催の広報の勉強会は大変勉強になります。幹事の皆さんも是非参加をお願いします。(吉岡監査役)

※認識違いによる記載及び質問がございましたら、IYEO 事務局(secretariat@iyeo.or.jp)まで問合せく

ださい。

以上